

新型コロナウイルス感染症対策 チェックシート

＜施設全体＞

項目		共有	会場	客室	食堂
1	換気（空調システム）	外気を取り込む空調システムか			
2	換気（窓開け）	窓開けが可能か			
3	冷暖房エアコン	ダクト等で他の会場と共有していない			
4	空気清浄機の有無	オゾン除菌			
5	空気清浄機の有無	オゾン除菌以外の方法			
6	除菌加工マット	出入口			
7	体温検知カメラ（サーモグラフィ）の設置				
8	非接触型体温計の導入または貸出し				
9	手指用アルコール消毒の設置	アルコール 70%以上			
10	予備マスク	3層構造			
11	清拭（机、イス、備品、ドアノブ、EV、スイッチ、アメニティ等）	塩化ベンザルコニウム			
12	清拭（机、イス、備品、ドアノブ、EV、スイッチ、アメニティ等）	アルコール 70%以上			

※共有：フロント、ロビー、廊下、化粧室、エレベーター、エスカレーター、喫煙室、ランドリー、ビジネスコーナー、自販機コーナー、売店、大浴場等

＜会場＞

項目	チェック
1 利用人数は、会場収容人数の 1/3～2/3 程度にする（目安：1 人当たり 6㎡以上）	
2 人と人の間隔は、1.5m以上をあけて、レイアウトを配置する	
3 3名掛けの机の場合は、1～2名掛けで利用する	
4 席配置は、真正面の位置を避けるか、テーブルの上にパーテーション（900mm以上）を設置する	
5 休憩時間など、定期的に窓を開放し、外気を取り込んでもらう	
6 マイクは使いまわしをしないようにする	
7 入室前に手指消毒（アルコール 70%以上）をしてもらう	
8 マスクやフェイスシールドを着用してもらう	
9 座席の変更は避けて頂き、変更の際は、机やイスなどをアルコール消毒（塩化ベンザルコニウム or エタノール 70%以上）で清拭する	
10 Web を利用したオンライン等の研修会議パックを導入している	

＜食堂・レストラン＞

項目	チェック
1 お客様用に手洗い用の洗面台と使い捨てペーパータオルを設置する	
2 お客様に使い捨ておしぼり（アルコール 70%以上）を提供する	
3 箸やカトラリーはセルフでとるスタイルではなく、必要な分を個別に設置しておく	
4 カウンターサービスは、可能な範囲で従業員とカウンター席との間隔を保つ	
5 お客様の席は、1.5mの間隔をあける	
6 お客様の席配置は、真正面の位置を避けるか、テーブルの上にパーテーション（900mm以上）を設置する	
7 大皿や鍋料理は避けて、料理は個々に提供するか、従業員が取り分ける	

8	テーブル、イス、メニュー、タッチパネル等はお客様の入れ替わる都度、アルコール消毒で清拭する	
9	お客様が並ぶことが想定される場合、1m以上の間隔をあけるよう目印等を設置する	
10	食堂内が込み合わないよう、事前に時間調整をする	
11	お客様が立ち上らないよう、フリーフードやフリードリンクの提供方法を工夫する	
12	参加人数や利用時間を制限する	

＜従業員＞

	項目	チェック
1	毎日の健康状態（37.5℃以上の発熱・咳・だるさ等）をチェックし、管理シートに記録する	
2	37.5℃以上の発熱・咳・だるさの症状がある場合は、自宅待機をし、医療機関に相談をする	
3	海外渡航をした場合は2週間を経過し、体調に異変がないか確認してから出勤する	
4	従業員の不要不急の出張を中止するとともに、海外渡航の自粛や延期を指導する	
5	就業中前後、化粧室使用後、食事前、外出からの帰社時等に手洗い・うがいを励行する	
6	従業員はマスクやフェイスシールドを着用する	
7	従業員は全員アルコール消毒液（アルコール70%以上）を携帯し、まめに手指消毒をする	
8	ユニフォームや制服は、まめに洗濯/クリーニングをする	
9	可能な限り時差通勤やテレワークを導入する	

＜運用＞

	項目	チェック
1	お客様で体調の異変（37.5℃以上の発熱・咳・だるさ等）を感じた場合は、連絡をいただく	
2	利用後でもお客様から新型コロナウイルス感染者または濃厚接触者が発生した場合は、連絡をいただく	
3	お客様で海外渡航をした場合は、2週間を経過し、体調に異変がないか確認してから参加してもらう	
4	事務局様には、参加者リスト（名前、電話番号等）を作成していただく（提出は任意）	
5	マスクは施設内のゴミ箱に捨てず、お客様ご自身に持ち帰ってもらう	
6	ロビー等の共有スペースは、密の状態にならないよう、テーブル・ソファ等のレイアウトを工夫する	
7	EV、喫煙室、ビジネスコーナー、大浴場等は、密にならないよう同時入室制限を明記する（EVは重量センサーの調整が望ましい）	
8	共有スペース（ロビー、フロント等）での飲食を制限する	
9	館内で行列が想定される場所（フロント、EV前等）は、間隔をあけて目印を設置したり、混雑しないようお客様に時間調整を依頼する	
10	お客様に同行するポーターサービスは特段のリクエストがなければ中止する	
11	マイクロバスを運用する場合は、予約制とし、乗車数は定員の2/3以下、車内のアルコール消毒や窓開けを実施する	
12	マイクロバス乗車前に、非接触型体温計で検温し、車内設置の消毒液（アルコール70%以上）で手指消毒をしてから乗車してもらう	
13	宿泊カード等はオンライン化し、モバイルによるチェックイン/アウトなどを導入する（鍵や筆記具の貸し出し、お金の授受を避ける）	
14	ルームキーや筆記具は都度アルコール消毒（アルコール70%以上）をする	
15	会計処理にあたる場合は、可能であれば電子マネー等の非接触型決済を導入する	
16	従業員とおお客様の接触を極力減らす（従業員からのチェックインの説明や料理説明などをメモやオンライン導入をする）	
17	現金授受にあたる場合は、従業員はコイントレイを使用し、都度手指消毒をする。	
18	従業員とおお客様が接触する場所にはパーテーション（高さ900mm以上）を設置する	
19	化粧室は、ハンドドライヤーを中止し、使い捨てのペーパータオルを設置する	
20	フィットネスなど感染リスクが高いエリアは利用を制限する	